

東北附連研究集会に参加して

5月11日（木）から12日（金）にかけて弘前市で開催された東北附連 東北P連研究集会に参加してきました。

まず感じたことは弘前市が近くなったということです。仙台駅から東北新幹線で約1時間半で新青森到着、そこから急行「つがる」に乗り換えて約30分で弘前到着です。

附属学校に勤務させていただくと、このように他県の附属学校の先生方と交流する機会があり、とても貴重な情報交換の場となります。「他校でも同じようなことで悩んでいる」と感じたり、新しい取り組みに感心させられたりすることが多く、たくさんの刺激をいただくことができました。

それにしても弘前市はすてきな町で、残念ながら桜の季節は終わっていたのですが、和洋折衷の町並みやリンゴの花、そして雄大な岩木山は私たちの心を和ませてくれました。夜の情報交換会で「岩木登山ばやし保存会」の皆様から「お山参詣」を披露していただきました。躍動的な演奏に津軽の方々のふるさとへの熱い思いに触れたような思いでした。

来年は仙台市が会場になります。たくさん宮城県のよさを伝えられる機会になれば、と思っ
ているところです。

さて、学校では教育実習の事前指導が開始され、学生のみなさんが配当される学級に案内されました。私も自分の最初の教育実習は大変な緊張と不安の中で迎えたことを覚えています。私たちにとって教育実習はもちろん学生を指導することが目的ですが、同時に一緒に教材研究をすることでもう一度教材の意味を問い直したり、学級経営を見つめ直したりする機会として生かして欲しいと思います。

公開研究会の指導案も完成し、また、今週で部内授業も全て終了する予定です。

準備の段階での一つの大きな山を超えたことと思います。

どの学級の子どもたちも間違いなく育っています。今の子どもたちの姿に自信をもって当日を迎えていきましょう。

(文責：副校長 手代木)